

同窓会

の

チカラ

同窓会のための情報誌

2015

特集1 ● 若人を呼び込む

- ・学生部会という形：大阪大学経済学部同窓会
- ・同窓会と生徒会：長野県岡谷東高等学校同窓会
- ・同窓会支部の奮闘：徳島県立徳島城南高等学校同窓会関東支部

特集2 ● 太陽光発電

- ・岐阜県立中津高等学校同窓会
- ・長野県上田千曲高等学校同窓会

リレー連載 ● 私と同窓会

- ・浜田高明（大阪府立夕陽丘高等学校同窓会）

紹介 ● 同窓会活動紹介

- ・財源確保のこの一手：群馬県立高崎高等学校同窓会
- ・大和撫子の伝承：華頂学園同窓会

わか学ひ舎

- ・広島県立福山誠之館高等学校同窓会

Our Proud

広島県立福山誠之館高等学校／誠之館記念館（旧藩校玄関）
（安政2年〔1855年〕築造の藩校玄関を分離移築／国登録有形文化財〔建造物〕）

Vol. 7

旧藩校福山誠之館

学生部会という形

大阪大学経済学部同窓会

同窓会と学生部会の緊密な連携が生む
豊かな学生生活と将来への希望

●大阪大学経済学部同窓会では、在校生の学生生活の充実と卒業生との交流、将来の進路の指導・支援等のためにECCOCAという組織を設立し、OFCという組織の支援を受けつつユニークな活動を展開している。その全体像と具体的な活動内容を、学生部会立ち上げに携わられた大学院経済学研究科教授の小林敏男氏、前同窓会事務局長の西尾方宏氏と現在の運営をサポートされている経済学部OFC事務局室長の城山徹夫氏に伺った。

ECCOCAとOFC

― 役者と黒子 ―

大阪大学経済学部の同窓会活動の特徴づけるもののひとつとして「ECCOCA」という組織があります。ECCOCAは本学部同窓会の下部組織で、同窓会準会員つまり在校生によって構成され、正式には「経済学部同窓会学生部会」と称します。ECCOCAはEconomics Connect Activateの頭文字をとった愛称で「経済学部を・つなげて・活性化する」という同窓会の理念を表しています。ECCOCAは二〇〇九年七月に設立されました。学生同士の交流のみならずさまざまな分野で活躍する諸先輩等と出会うことで、自らの可能性に気づき豊かな学生生活を送り、そのうえで「大阪大学経済学部の発展に貢献」し、最終的にはより良い未来を切り拓くことを目的としています。

一方、OFC（オープン・ファカルティ・センター）は、社会に開かれた大学という考えのもと、社会と大学の橋渡しをするための組織で、経済学部には

す。経済学部創立五十周年（一九九八年）の記念事業のひとつとして開設され、大学からの情報発信、同窓生向けの講演や交流会、奨学金のサポートなどを行っています。そしてECCOCAの活動支援もこのOFCが行います。現在、経済学部内に設けられた専用の部屋で経済学部OBである室長と専従者二名がさまざまな業務に携わっています。そして六十周年記念事業（二〇〇八年）では「二十一世紀に向けた人材育成」をテーマに掲げ、在校生支援により重点を置いた形で現在に至っています。

ECCOCAの活動

― 学生による学生のための組織 ―

ECCOCAの活動はすべて学生自身が考え実行しています。具体的な活動としては、二〇一四年実績で十六回ほどイベント



GD (Group Discussion) 対策講座

を行いました。それぞれに担当者を配し、スタッフを集め、必要に応じて外部の業者やOB・OG、あるいは企業などと折衝を行います。イベントには卒業祝賀会やビアガーデンパーティーのような学生同士の相互交流・親睦を意識したものもあります。多くは将来をみすえた卒業生との交流、業界探究セミナーなどで、堅実な活動と言えるのではないのでしょうか。

ECCOCAでは、企画・渉外・広報・実施・会計の全てを会員が行います。それゆえ、自ずと実社会の仕組みを体験することになります。学生さんだから、という甘えを排して、利益をあげるべきものは利益をあげる努力をするなど、より実践的な企画内容になっていると思います。

もちろん学生の最大の関心事は近い将来の就職です。それを意識したイベントが多くなっています。OB・OGとの交流も単なる集りではなく、より真剣なものになります。なかでも就職活動の時期には、各業界のリーディングカンパニー二十数社に業界についての講演をしていただく「業界探究セミナー」は、学部を超えて聴講者が集まる人気イベントです。このとき参加者に資料として無料配布する「業界探究のススメ」もECCOCAの編集によるものです。A4判八十ページにさまざまな情報が満載された力作で、二十名を超えるスタッフが企画に知恵を結集して作り上げるものです。冊子には各業界の、それこそリーディングカンパニーからの企業広告も掲載されています。広告出稿のお願いなどは、卒業生やOFCの協力が必要ですが、こうした広告自体が、学生・企業双方にとって確実にメリットがあるように思



●連絡先

大阪大学経済学部
オープン・ファカルティ・センター事務局
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-7
Tel : 06-6850-5259 Fax : 06-6850-5268
E-mail : joyama@econ.osaka-u.ac.jp
URL : http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/ofc/



左：大阪大学大学院経済学研究科教授 小林 敏男（こばやし・としお）氏
右：大阪大学経済学部・前同窓会事務局長 西尾 方宏（にしお まさひろ）氏

われます。他方、広告収入はECOCAの活動資金源でもありますから重要です。業界探究セミナー等の活動を通して、学生は社会のさまざまな部分にチャンネルを持つことができますし、また協力を仰いだOB・OGをはじめとする方々との関係を築くこともできるわけです。これもひとつの就活と言えるのではないのでしょうか。

ECOCAとOFCの経済学

先に述べたように、「次世代を担う人材育成」という考え方をベースに「大学+同窓会+OFC」の三者協力による取り組みを具体化したものが「学生会」ECOCAです。同窓会としては、ECOCAは同窓会の、ひいては大阪大学そのものの将来の発展につなげる、いわば種まきと捉えています。ECOCA自体の活動費は、年会費と広告やパーティーなどの事業収入、創立六十周年記念事業からの支援でまかなわれています。支出はイベントにかかる諸費用、印刷代などの外注費がほとんどで、専用の「部室」のようなものがないため事務所経費もかかりません。その代わりにOFC室をよく利用しています。そして収益の余剰はプールして、将来のため後輩たちに引き継ぎます。無論、学生スタッフは全員ボランティアです。

通常「準会員」に同窓会費は課されませんが、ECOCAの場合、卒業生より割安な会費が徴収されます。いわば同窓会の前倒しということになりますが、その代わりメリットも多くなります。他方、OFCの運営費は基本的に五十周年時の寄付金をベースに、その他各種寄付

金でまかさないです。六十周年時の寄付金はリーマンショックの後遺症などもあってあまりふるわず、目標額には達しませんでした。しかしこうした寄付金もいずればなりません。そこで、大阪大学経済学部同窓会では「活力ある大学づくり」というテーマの下で「大学・同窓会・OFC」という鼎を軸として、その理念を持続可能な形で具現すべく活動しています。そのひとつの答えが、ECOCAなのです。そしてECOCAの活動を推進するためには、OFCの存在は欠かせません。OFCが安定的に活動できる環境を構築するためにどのような方策が必要なのか、大学とともに検討を重ねているところです。

「学生会」という考え方は、おそらくどちらの大学同窓会でも構想され、あるいは実施されていることでしょう。しかし本学部の「学生会」はサークルとは違う理念で存在しています。学生の自主性と、自らの能力を開拓していくという積極性を最も重視しています。そしてそれらは、時に注意深く指導し、アドバイスしなければならぬものです。そのためには「大学・同窓会・OFC」の緊密な体制を維持し発展させることが重要だと大阪大学経済学部同窓会では考えています。



▲「業界探究のススメ」



▲大阪大学経済学部 OFC 事務局スタッフ
右端が室長・城山 巖夫（じょうやま・いわお）氏



●大阪大学経済学部同窓会学生会 (ECOCA)
URL : http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/ofc/esp/index.html

同窓会と生徒会

長野県岡谷東高等学校同窓会

生徒会との交流を通じて築きあげる
新しい形の同窓会活動



●連絡先

〒394-0033 長野県岡谷市南宮 2-1-17
長野県岡谷東高等学校 東高会館
TEL 0266-22-9060 (同窓会事務局)

●長野県岡谷東高等学校同窓会では、一九八九年以来、同窓生と在校生による「同窓会・生徒会交歓会」を毎年開催している。これは現在の生徒の生の声を聞くことで学校生活の改善・改良を目指すという考えに基づいている。その「交歓会」開催の経緯と現状を同窓会長の宇治とみ代氏と副会長の向山範子氏、事務局の薦垣喜代美氏に伺った。

岡谷東高等学校では同窓会活動の一環として「同窓会・生徒会交歓会」というものを開いています。これは同窓会(同窓生)と生徒会役員との懇談会で、平成一年から始まりました。きっかけは創立七十周年の記念事業である同窓会館(現東校会館)が竣工したこと、男女共学化から三年という節目であったことなどです。また県内他校で開催されている同様の活動もひとつの動機ではありました。

交歓会そのものは、生徒会の正副会長と十一の委員会の役員、また学校から担当の先生数名、同窓会からは理事・役員、合計三十から四十名が参加、これを十五人一グループの三グループに分けて各々の会合を開きます。時間は一時間ほど。会場は「東校会館」で、毎回さまざまな意見が出て来ます。具体的には、東高への思い、卒業後の進路や仕事、家庭や学校での生活、携帯電話、小遣いやアルバイト、化粧、制服のことなどですね。その後、全員が集合して各グループのまとめが発表され、生徒会長が挨拶と各種の伝達事項を述べ、校歌を斉唱し終了するという流れです。

一方で学校には「PT S協議会」というものがあります。PT Sは保護者、教職員、

生徒の頭文字をとったもので、この三者がよりよい学校づくりを目指して課題を話し合うという趣旨の集まりで、毎年五月と十二月の二回開かれます。そしてそこでの意見を受けて毎年十月に「PT S総会」を開催しています。こちらは全校生徒だけでも参加できますし、実際に参加する生徒は非常に多いですね。具体的には十数の分科会に分かれてそれぞれのテーマについて討議が行われます。同窓会もこのPT S総会にアドバイザーとして出席しています。またPT S総会の日の午前中には、公開授業が各教室で行われます。公開授業は保護者、同窓生だけではなく、中学校関係者(教職員、保護者、生徒)や地域の方も自由に参観できます。

この「PT S協議会」が「同窓生・生徒会交歓会」を契機に始まったかどうかは分かりませんが、両者とも発足以来続いており、学校の運営上、意義あるものと位置づけられているのは確かです。実際にそれなりの成果も上がっていると私もは考えています。

「同窓生・生徒会交歓会」の同窓会としての位置づけは、当然のことながら学校支援です。かつて学び、今も抱く良き思い出を現在の生徒たちにも持ってほしいということ、そしてより良き人生を歩んでほしいという気持ちが根底にあります。いわば「親心」ですね。岡谷東高等学校同窓会では、これからもこの活動を続け、「PT S協議会」と手を携えながら、地域と、広い意味での教育に積極的に寄与して参りたいと願っております。

◀◀「同窓会・生徒会交歓会」の様子
(東高会館内)



同窓会支部の奮闘

旧制徳島中学校・徳島県立城南高等学校同窓会 関東支部（渦の音クラブ）



●連絡先

〒112-0001 東京都文京区白山 4-24-17

三橋浩志／稔子（みつはし・ひろし／としこ）

mail: info@uzunooto.jp

URL: http://uzunooto.jp

世代間の断層を超えた 新しい形の同窓会を求めて

●同窓会は、母校所在地にある本部の他に、他の地方にも支部があることが多い。特に東京や大阪などの大都市には必ずと言っていいほど支部が設置されているのが実際だ。かつては進学先や就職先が比較的限定された地方の出身者は、大都市にその行き先を求めたものだったが、昨今の価値観の多様化ともあいまって、現在では状況に変化が起きていくらしい。その間の事情と実際を、関東支部事務局の三橋浩志氏に伺った。

私も関東支部は「渦の音クラブ」と申しまして、旧制徳島中学校・城南高等学校創立百周年を記念して一九七三年（昭和四十八年）に結成されました。以来毎年総会を開き、会員同士の交流を深めるなどの活動しております。「渦の音クラブ」の会員は、現在二千人ほどです。ただし近年年間百人くらいずつ減少している現実があります。これは自然減ということもあるでしょうが、転居その他で連絡がつかない人が増えていること、新しい会員が入って来ない、ということが主な原因です。もちろん会員の高齢化という理由もあるでしょう。また同窓会名簿作成時にも、名前は仕方がないが住所や電話番号などの記載は拒否する、という人が増えてきました。その結果、連絡が出来なくなり、自然と退会したような具合になっているケースもあります。これは個人情報保護法に対する誤解や過剰反応によるものと思われるのですが、母校とは関係のない宣伝や勧誘その他の迷惑を受けているのも事実でしょうし、それを避けたいとする意識が強くなってきたということでしょうね。

一方で、新しい人が入ってこないのには幾つか理由があると思います。まず第一に少子化が挙げられます。私は昭和五十九年卒業ですが、当時十二あったクラスが、今では八クラスになっています。加えて東京の大学に進学する卒業生も少なくなってきたという現実もあります。城南高等学校の卒業生は、以前から関西方面に行く人が多かったのも事実ですが、今では徳島県内の大学も増えましたし、ムリをして都会の大学へ行かなくてもいいじゃないかと考える高校生・保護者が多くなったということも大きいでしょう。昔とは違い、今では進学にせよ就職にせよ安全コースを志向する傾向が強いように思います。

更に、母校は徳島県トップの進学校でしたが、徳島県では一九七二年から「総合選抜入試」を導入し、二〇〇三年からはまた「単独選抜入試」に戻ったこともあって、各人試制度の卒業生によって母校に対する意識の違いがあると考えられます。残念なことに、中には同窓会は敷居が高いと感ずる人もいますし、同じ卒業生であっても意識に断層があるのは確かでしょう。

こうした状況で「渦の音クラブ」の活動を何とかしたいとして考え出したのが「若手会員交流会」です。実は若手の会員を集めてのパーティーですが、毎年一回、十〜十五人ほどの若手と世話役数人が出席します。会費は無料。予算は約十数万円で、かつて甲子園に出場した際の寄付金の残りから出しています。目的はもちろん会員の交流ですが、同時に「同窓生間の断層」を埋め「敷居の高さ」を払拭するのも狙いです。また連絡のつかない卒業生の消息を参加者から得ることも重要です。そしてそ

ういう卒業生を誘って参加するように勧めてもいます。

そうした一方で、ネットも積極的に活用しています。「渦の音クラブ」専用のHPはもちろん、ブログ、フェイスブックなども用いてアピールしています。その結果、わずかながらではありますが、新たにコンタクトして来る卒業生もいます。

このように様々な考えを持った関東在住の同窓生で構成されている「渦の音クラブ」ですが、こうした状況は、多かれ少なかれどちらの同窓会でも見られることだと思います。しかしそれを克服して、出来る限り多くの同窓生を集め、ひとつの力としていくのが同窓会の使命でもあります。ですから、これからもさまざまな形で活動が続けて参ります。目下はネットの更なる活用を目指して研究中です。



▲若手会員交流会



太陽光発電 1

岐阜県立中津高等学校同窓会・旭陵会

留学生を送り出す

太陽光発電のチカラ



●連絡先

岐阜県立中津高等学校同窓会

〒508-0001 岐阜県中津川市中津川1088-2

TEL: 0573-66-1361 FAX: 0573-66-1362

左: 松木 詠史 (まつき・えいし) 氏/教諭・同窓会事務局

右: 小林 主殿 (こばやし・とのも) 氏/教諭・旭陵留学担当

●岐阜県立中津高等学校同窓会では、創立百周年記念事業として開始した海外留学生制度の支援を念頭に、その安定的財源確保の手段のひとつとして太陽光発電を導入した。寄付金に頼るだけでなく、自ら積極的に学校支援に乗り出した同窓会事務局の松木詠史氏と、海外留学担当の小林主殿氏に、太陽光発電の実際と留学生制度のあらましを伺った。

中津高等学校では二〇〇五年、創立百周年記念事業の一環として「旭陵留学プログラム」というものを開始しました。これは語学留学ではなく、正規の生徒として海外英語圏の高校で学ぶというもので、一・二年生の希望者からELTSIISという留学試験用のテスト等を経て選ばれます。期間は三ヶ月から一年ですが、学校としては年間派遣を勧めています。留学生には、留学先によって幾分か違いはありますが、奨学金として同窓会より一人あたり百万円を給付します。これは返済の必要はありません。

留学先で取得した単位は日本で有効です。例えば、休学せずに三年次の夏に出発をし、一年間留学後に、七月に卒業した例があります。また、休学し帰国後三年次に復学することもできます。ただ日本の大学受験という現実もありますので、多くは一年休学を選択し、出発時の学年に復学しています。

派遣する留学生数は、この事業を開始した二〇〇五年から二〇〇九年までの第一期は年間六名、計三十名です。しかし資金

の問題もあり、二〇一〇年からの第二期では二名づつとせざるを得ませんでした。学校および同窓会としては第二期は十年間は続ける予定です。それ以降は状況を見ながら検討することになりますが、出来るだけ継続したいと私たちは考えています。しかし問題は何と言っても財源です。寄付金に頼るだけではどうしても限界があります。そこで考え出されたのが太陽光発電というわけなんです。

同窓会の関係者に太陽光発電に詳しい方がいたこともあって、このアイデアはすんなり決まったんですが、問題は設置場所です。当初は校舎の屋上を考えていました。しかし校舎屋上は十年ごとに防水工事のメンテナンスがありますからその都度撤去し再度設置する必要があるとして具合が悪い。更に用地の目的外使用料を県に支払う必要もあります。そこで中津川市に相談したところ、市有地を無償で貸与して下さることになり、実現の運びとなりました。名称は同窓会名から「旭陵太陽光発電所」としました。出力は約五〇kwで二〇一三年六月から稼働しています。諸経費を除いた収入は年間約二百万円を見込んでいましたが、現状はおおよそ目論見通りに推移しています。もちろん太陽光発電は天候に左右されるのが大きいわけですが、岐阜県中津川市という山がちな場所でもこの程度の成績ですので、まずは成功と言えるでしょう。

太陽光発電所開設に際して必要とした事業資金は約二千万円で、これは同窓会の資金とPTAからの借入金でまかないました。借入金は創立百周年記念事業の募



▲旭陵太陽光発電所の前にて

金で返済する予定です。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度の下での電力の買い取り価格は一kwあたり四十二円で、太陽光発電導入にあたってはおそらくベストのタイミングだったと思います。

グローバルな人材を育成する留学制度を維持していくために、またさまざまな活動を通して地域の発展を確かなものにしてゆくために、私たちは太陽光発電にとどまらず母校を強力に支援し続ける同窓会でありたいと考えております。



太陽光発電 2

長野県上田千曲高等学校同窓会

長野県の県立高等学校の
太陽光発電第1号



●連絡先

長野県上田千曲高等学校同窓会
〒386-8585 長野県上田市中之条 626
TEL 0268-22-7070 (代表)

清水 高市 (しみず・たかいち) 氏
教諭・同窓会担当

●長野県上田千曲高等学校同窓会では、創立百周年記念事業の一つとして、全教室に扇風機を設置し、その電源として太陽光発電装置を設置・運営している。再生可能エネルギーとして注目されている太陽光発電導入の経緯と実際を同窓会担当の清水高市氏に伺った。

長野県上田千曲高等学校と同窓会ではこれまでも幾つもの周年事業を手がけてきました。六十周年には新校舎建設、八十周年には桐葉館(とうようかん・同窓会館)を設置、九十周年には雨天練習場を新設するなどの事業を行っています。このたびの百周年では、生徒の学習環境整備として各教室に四台づつ扇風機を設置することが企画されました。といいますのも、かねてから夏場の暑さ対策が求められていましたし、かといって全校規模のエアコン導入には大変な費用がかかることから、結局扇風機に落ち着いたわけです。そして二九八台の設置を県に申請したのですが、維持費(電気代)は設置者(同窓会)が支払うことが条件でした。そこで工業高校でもあることだし、電力を太陽光発電でまかなうことにしたので。

ひとくちに太陽光発電といってもいろいろと制約があります。たとえば発電量が五〇kwを超えると専任の管理者をおく必要があり、新たな費用が発生します。そこで発電システムを家庭用として最大の五〇kwとし、中部電力と売電契約を結び、運用を開始しました。ご承知の通り、県立学校の敷地や校舎および付帯設備などの資産は県の所有ですから、校舎屋上に太陽

光発電装置を設置する場合、県の許可が必要となります。しかし長野県ではこれまでこうした前例がなく、互いに手探りの状態で、多くのやりとりの末に、二〇一二年県が校舎屋上に貸し出す条例を定め、ようやく実現のメドが立ちました。二〇一三年に県の認可を受けて手続きをし、二〇一四年五月に竣工・運用開始となったわけです。ですから本校の太陽光発電システムは長野県の県立高等学校第一号なんです。

導入の結果について言えば、設置した扇風機などの維持費は売電収入でカバーできると考えています。中部電力との契約期間は二十年で、売り上げと使用電力代との差額は同窓会に入り、会報発行その他の活動の費用に充当されます。また肝腎の設置時の費用ですが、太陽光発電システムの二千万円、扇風機と一部のエアコンの千七百万円は募金でまかさないです。実際には設置費用を同窓会が金融機関から借り、それを募金と売電分で返済するという仕組みです。百周年は二〇一七年ですから三年前倒しとなってしまいました。記念事業の募金は始まったばかりですので、設置費用については関係者のご理解ご支援が得られるものと確信しています。運営の経費としては、業者に支払う「保守整備費用」、県に支払う校舎屋上の「使用料」が主なものです。また同窓会という「人格なき社団」が運営する以上、収益に対しては課税されます。

現状、年間売電収入は約二百万円を見込んでいます。ただこの事業そのものはまだ始まったばかりですし、太陽光発電

は天候・気候に左右されますから、実際の結果が見えたとは言えません。しかしながら、教育の見地からも、環境やエネルギー問題を考える実例が学校生活の中にあるということは、大変意義深いことだと思いますし、一方で、同窓会を「アグレッシブな同窓会」「行動する同窓会」へと一歩進める契機となったと考えております。



▲教室に設置された扇風機



◀校舎屋上に設置されたソーラーパネル

私と同窓会

浜田 高明

夕陽丘らしさを考え、
清香会の在り方を求めてきて思うこと

大阪府立夕陽丘高等学校同窓会（清
香会）理事
浜田 高明（はまだ・たかあき）氏
（新制 23 期・昭和 46 年卒）

前会長の急逝に伴い、何の心の準備もないままに会長に任命されてより十年以上の歳月が流れた。就任当初は目前に母校百周年を控え、ただただ記念事業の完遂に精一杯の日々。事業の主体は学校、同窓会は後方支援に徹し、会長とは名ばかりではあったが、当時の校長先生以下教職員、諸団体、卒業生の方々のおかげで無事大任を果たすことができた。今思えば、夕陽丘（母校）とは、清香会（同窓会）とはを考えると、清香会となった。

続く清香会の百周年では、夕陽丘らしさを存分に表現しようと、ホールでの式典、ホテルでの祝賀会と言った定番を取らず、母校において大人の文化祭「夕陽丘大文化祭」を挙げる。卒業後その道のプロになった者から、楽しいこと大好きのアマチュアまで、出演者、出展者、模擬店はもちろん、主催者も参加者もすべて夕陽丘の卒業生。そこに集った老若男女に見た共通点、それは節度ある乗りの良さ、快活。そして何よりも、「夕陽丘が好き」の思い。清香会の活動の原動力を実感した。

ふたつの大きな催事を通じて得た結論は、「夕陽丘が好き」を原動力に「母校の支援」に徹することが清香会の使命。学年会やクラス会、クラブのOB会、仲間が集まりプチ同窓会、卒業生が集い親睦を深める。どの集いも楽しく嬉

しいものだ。その底流には必ず母校への愛着と誇り、感謝がある。その熱い思いが支援として表れるのが理想的。会の活性化と各年度の事業の推進のために就任時に掲げた三本柱は、事務局の充実・広報の充実・財源の確保。小さな変革、改善を積み重ね、これらはほぼ実現し、今では母校支援のための基金もでき、会則の変更（清香会が行う事業の条項の第一を「母校支援」とするもの）も承認された。

近年、公立高校の周辺には変革を迫る大きな波が押し寄せている。しかしながら、百年の歳月を時代とともに生き続けてきた母校夕陽丘にとっては、それは幾度となく訪れた波のひとつに過ぎない。旧制高等女学校のむかしから、戦後の学制改革を経て新制高等学校としてのこれまで、校舎も人も移り変わり、幾多の荒波にもまれながらも、それでもなお夕陽丘は夕陽丘らしさを保ち続けている。時として華美と評されたものの本質は快活であり、また軟弱と揶揄されたものは、時代の変化に適応する柔軟性となり、それらは荒波にも負けないたおやかさとなる。夕陽丘を巣立った者たち一人ひとりの胸にあるやわらかな愛校心が底力となって夕陽丘はこれからも明朗温雅・自主自律の校風を保ち続けていくに違いない。清香会の事業、活動の判断基準は、母



◀大阪府立夕陽丘高等学校・清香会館

●連絡先

〒 543-0035
大阪市天王寺区北山町 10-10
大阪府立夕陽丘高等学校
清香会事務局
電話 06-6772-5654
E-mail seikoukaikan@nifty.com

校のためになるか、現役生徒・現教職員に役立つか、卒業生の喜びに結び付くか、そして夕陽丘らしいか。学校とは付かず離れず適度な距離を保ちながら、夕陽丘が今後もそののびやかな校風や教育の場としての質を保てるよう活動を続ける、明日に向かって今を生きる同窓会でありたいと思う。

財源確保のこの一手

群馬県立高崎高等学校同窓会

同窓会費の減少に歯止めをかける
ささやかな工夫がもたらした
思いがけない効果



●連絡先
群馬県立高崎高等学校同窓会
〒370-0861 高崎市八千代町 2-4-1
TEL & FAX 027-320-6024
e-mail suiran@email.plala.or.jp
立見 友孝（たつみ・ともたか）氏
高崎高等学校同窓会本部幹事長



●同窓会員の減少と同窓会費の納入率の低下は、おそらく全ての同窓会に共通する悩みに違いない。会員の高齢化と卒業生数の減少はいわゆる「少子高齢化」の現象とほぼ軌を一にしている。しかもこうした状況が近い将来解決される見込みは無いのが現実だ。アクティブな会員の減少は即会費の減少につながり、同窓会の十分な活動・運営に支障を来すことは明かだろう。こうした危機感はある同窓会が抱いているところだし、その対策に苦慮している。そうしたなか、福田・中曽根元総理を輩出し、間もなく学校創立一二〇周年を迎える群馬県立高崎高等学校同窓会では、あるちょっとした工夫で会費納入率をアップさせることに成功した。加えて同校の「育英制度」への寄付も増加したという。その「工夫」について同窓会本部幹事長の立見友孝氏に伺った。

二〇一三年現在、本校同窓会員数は二万二千余です。一般の年会費は二千元ですが、この会費の納入率が年々減少傾向にあり、二〇一三年度は納入者数約一八〇〇人・会費合計約六〇〇万円でした。同窓会としては文武両道で活躍する生徒達の部活動環境と、学業に専念できる環境整備等の支援をPTA及び教育後援会と共に行ってありますが、現状の年会費では十分ではありません。同窓会報と共に体育系部活動を紹介する「翠巒体育」誌も同窓生に配布しており、郵送費だけでも一回に一六〇万円の消費になります。

こうした状況を改善するために同窓会報やホームページを通して、未納入者への

働きかけを行ってききましたがより効果的な方法が見つからず、暫く試行錯誤が続きました。検討案の中では、コンビニ振り込みについて地元銀行に相談しましたが、経費面や手続きの面から中々具体化するまで行きませんでした。

こうした中、同窓会名簿を依頼している株式会社サラトの担当者との相談をしたところ、同社ではすでにコンビニ納付のシステムを数多く手がけているとのこと、また同社の保有している本同窓会データをもそのまま活用できるという利点もありました。

これを受け早速具体的な内容について株式会社サラトと検討を始めたのですが、同時に、同窓会と関係の深い「公益財団法人翠巒育英会」も資金難に悩んでいる状況がありました。

この育英会はかつて本校が甲子園に出場した際に集まった寄付金の残金を原資として発足したものです。同会の奨学金システムは、新入生の希望を受け、経済的状況・成績・人物等を中心に審査して受給者を選定し、三年間毎月一万円を支給するというもので、返済の必要はありません。受給者は各学年五名程度です。この事業を継続するためには年間約一八〇万円の資金が必要ですが、これについては寄付金と運用益でまかなっていました。しかしながら近年運用益が見込めないため、あと数年のうちには基本財産を取り崩さないと奨学金給付事業を継続出来ない状況となっていました。

こうした中、同窓会会費二千元と共に育英会の寄付金一千元も合わせてお願いしようということになり、本校事務長、株式

会社サラト担当者と検討を重ねました。払込用紙には金額に加え住所・氏名・卒業期等も刷り込み印刷し、納入者の便を図りました。期待と不安でスタートしましたが、結果は予想以上のものとなりました。

納入者数と金額は二〇一三年度の約一八〇〇人・六〇〇万円から二〇一四年度には約三〇〇〇人・八〇〇万円に達し、納入率も八%から一四%へと大きく伸びました。特筆すべきは若い世代層の納入率が大きく伸びたことです。二四時間営業のコンビニ活用が功を奏したかと思えます。育英会も約一五〇〇人・一五〇万円の純増となり、この状態が継続できれば基本財産を取り崩すことなく運営も安定する見込みです。

今後更に工夫と検討を加え、納入率二〇%へと挑戦し、母校への支援をより深めて参りたいと考えております。



▲銀杏並木と校舎



大和撫子の伝承

華頂学園同窓会

和顔愛語の精神とともに受け継がれる
母校への愛と同窓の絆



●連絡先
華頂学園同窓会
http://www.kacho.ed.jp/
〒605-0062 京都府京都市東山区林下町 3-456
華頂女子高等学校内
TEL 075-541-0391 FAX 075-541-5962

足立 充子（あだち・みつこ）氏
華頂女子中学・高等学校教諭（同窓会担当）

●華頂学園同窓会では、同窓生を対象とした講座「趣味のサロン」を開催している。同窓会活動の大きな柱となっているこの「趣味のサロン」について、同窓会担当の足立充子先生にお話を伺った。

本校同窓会による「趣味のサロン」は、年二回、春と秋に行われます。具体的な内容は「箏曲（生田流）」「日本舞踊（花柳流）」「かな書道」「生け花（都未生流）」で、各講座とも一期六回、本校の和室や会議室を使用して行われます。また講師の方の都合などによって内容に若干の変更が生じることもあります。受講料は一期で三千元、講座によっては他に材料費がかかる場合もあります。

この「趣味のサロン」は講師・受講者ともに本校の同窓生でして、個人的な「趣味」を通しての交流ではありませんが、事実上同窓会活動の主要な柱となっています。同窓生による同窓生のための集りですので、在校生の参加はありません。これまでの様子を見ていますと、参加者は五ないし十数名で、中には複数の講座を受講される方もいらっしゃいます。

一つの講座の時間はおおよそ二時間ほど。箏曲のみ高校からの体験者で他は初心者から始めておられます。外見には同好会的な印象を与えるかとも思いますが、お仲間が集りを楽しむだけでなく、同窓会の総会や、市内の老人ホーム、地下街、また京都まつり等で日頃の成果を披露したりしています。特に総会の懇親会では、毎年「清興」と申しまして、集まった同窓生の前で歌や踊りその他を披露して頂いています。内容は毎回違いますけれども、「清

興」は本校関係者の方で何かして頂くという限定されたものです。この「清興」にも「趣味のサロン」は大きく関わっておりまして、出演が決まりますと、講座とは別にそのための特訓をするなど、単なる同好会の域を超えた頑張りをされます。出演者は大変でしょうが、それはそれでやはり楽しいものには違いなく、他の同窓生の方々も楽しみにしていることは間違いありませんから、皆さん張り切ってお稽古に励んでおられます。

「趣味のサロン」は同窓生だけの集りですが、そうした同好会はごく普通に見られると思います。しかし開催の頻度が高く、しかも「趣味のサロン」というくくりの下で、いくつもの講座を設けていること、それを母校で行っていること、同窓会活動のひとつでありながら、慰問や文化催事など外部にも関係を持ち活動していることなど、非常に積極的な点でユニークだと思います。こうしたことが可能なのは、本校が比較的小規模の学校で、生徒・卒業生が互いをよく知っていること、つまりそれだけ母校との絆が強いということでしょうね。

この「趣味のサロン」は十年以上は続いています。おそらくそれ以前にもサロンの元となった集りがあったことでしょう。現在は講座の形にまとまって、より参加しやすい開かれたスタイルになっています。母校を時折訪ね、親交を深めていくのは同窓生としての喜びでもありますし、初心を思い出すきっかけにもなるでしょう。使い古された言葉ではありますが、「趣味のサロンの」活動を見ておきますと、人と人との

「絆」というものが、今ここに脈々と生きていることを実感します。

◀同窓会総会での「清興」（2014年）

▼華頂女子中学高等学校・中庭





福山誠之館同窓会

http://wp1.fuchu.jp/~sei-dou/index.htm

〒 720-0082 広島県福山市木之庄町 6-11-1

(福山誠之館高等学校内)

TEL&FAX 084-991-1560

わが学び舎

福山誠之館同窓会

(広島県立福山誠之館高等学校同窓会)

誠者天之道也、誠之者人之道也
 連綿として続く至誠の精神

沿革

藩校時代

誠之館は安政二年(一八五五年)、江戸幕府の老中首座で、備後福山藩主の阿部正弘が現在の霞町に創立した藩校「福山誠之館」が始まりで、今年(一八七九年)創立百六十一年となる。藩校としては誠之館以前に弘道館が天明六年(一七八六年)に建学されており、そこから数えると二百三十周年となる。明治五年(一八七二年)に廃藩置県により藩校誠之館は閉校となるが、以後師範学校などの各種学校として存続した。

公立中学校時代

明治一二年(一八七九年)旧藩校校舎を利用して広島県福山中学校が開設され、五回の名称変更のち、昭和二年(一九二七年)に広島県立福山誠之館中学校となった。その後、校舎の老朽化に伴い昭和七年(一九三二年)に三吉町に移転する。

公立高等学校時代

昭和二十三年(一九四八年)、学制改革により広島県福山誠之館高等学校となる。昭和二十八年(一九五三年)、創立百周年の記念式典を挙行した。昭和四十四年に現木之庄校舎に移転し、平成十六年(二〇〇四年)には創立百五十周年を迎え、盛大な記念式典が執り行われた。

誠之館は藩校以来の建学の精神として文武一致を掲げ、幾多の変遷を経ながらも地域の中心的な教育機関として有為の人材を育んできた。

著名な卒業生としては、文部大臣・広島大学学長の森戸辰男、英文学者・随筆家の福原麟太郎、作家で文化勲章の井伏鱒二、

日本画家の塩出英雄、推理作家の島田莊司、漫画家の満田拓也がいる。

音楽の分野では、童謡詩人の葛原しげる、クラリネットの藤家虹二、歌手の友竹正則、民謡研究の藤井清水がいる。

財界には住友の大平駒槌、日本製鋼所の井上角五郎、三菱鉱業の三谷一二、電源開発の藤井崇治があり、工業デザイン分野には栄久庵憲司がいる。

その他広い分野に多くの人材を輩出している。

表紙写真・解説

誠之館記念館

昭和七年(一九三二年)に校舎が三吉町へ移転する際、安政二年築造の玄関を分離し移築させ、その歴史と伝統を後世へ伝えるために誠之館記念館と名づけた。その屋根の部分はアーチ型の独特な唐破風造りとなっていて、今に江戸時代の雰囲気を感じさせる。以後、創立以来の校宝や史料の管理保存の場所として活用されてきた。

平成十三年(二〇〇一年)には、その造形美が評価されて国の登録有形文化財に指定された。



▲阿部正弘(あべ・まさひろ)公

●誠之会館(同窓会館)

平成十二年(二〇〇〇年)完成の誠之会館には、同窓会の歴史資料室と事務局がある。歴史資料室では、それまで誠之館記念館に所蔵していた史料の調査・研究を行ないながら、ホームページを中心とした媒体で発信を行なっている。また付属の展示室では、定期的な展示替えをしながらの常時展示を行ない、広く一般に公開をしている。収蔵している史料には、福山藩阿部家関連のものや、藩校時代・中学校時代・高等学校時代の収集品がある。その数は今や六千点を越えている。例えば、阿部正弘公の肖像画、ペリー提督ゆかりの三球儀や、頼山陽の肖像画などの書画や物品などのほか、和漢洋の書籍類が多い。

「誠之会館・歴史資料展示室」

開室 平日 午前9時〜午後5時
 入室 無料



▲展示室風景

ごあいさつ

福田 裕一

東日本大震災から4年、
岩手県陸前高田市を訪ねて



株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

あの東日本大震災から早くも四年の歳月が流れました。現在、私は年二回、東北沿岸地域（岩手県、宮城県、福島県）のお取引先を訪問しております。そのきっかけは、震災後その地域の学校・同窓会からの電話でした。

「同窓生の安否を確認したい」「教え子の様子が心配だ」・・・でも学校が、自宅が流され手元に名簿がない

確かこのような内容が大半だったように記憶しております。そのようなお電話の中でも特に印象的だったのが岩手県立高田高等学校（陸前高田市）の同窓会担当の先生（当時）からのお電話でした。（小誌第四号参照）ある意味、これが私にとってその先生とのご縁となり、今なお続いている定期的な東北訪問のきっかけになったように思います。

二〇一一年五月、営業の者と一緒に、落丁乱丁時の交換用として保管してあった同窓会名簿を持参し、仮校舎として使用していた旧岩手県立大船渡農業高等学校の校舎を訪ねたのが最初でした。震災から二ヶ月が経過してもなお大変お疲れの様子だった先生から当日の様子を直接聴き、その後の沿岸地域の状況をこの目で確かめられたことは、不謹慎な表現ではあります。私にとって大変貴重な経験となりました。

その高田高等学校もいよいよ今年度（平成二十七年）より新しい地で新しい校舎で再開いたしました。東北全体の復旧・復興のスピードは、決して早いと言えるものではないと思いますが、それでもこうし

て、着実に前進していることが実感でき、大変嬉しく思いました。

言うまでもなく同窓会の基盤は「人」であります。この未曾有の大災害によってその絆がいま壊れたままになっていて、毎回訪問するたびに同窓会の方々からは、同窓会に対する熱い思いをお聴きします。純粋に母校や同級生を懐かしく想い、同窓会活動を通じて学校を、地域社会を活性化させたいと思う人たちに私たちサラトはどう貢献できるのか？ これは東北のみならず日本全国の同窓会に対して、「その中でサラトは何が出来るのか？」という問に対する挑戦でもあります。

この気持を常に意識しながら、これからも東北訪問を継続していく所存です。



▲建設中の高田高等学校（2014年12月3日撮影）

同窓会のチカラ 2015年号 / Vol. 7 (2015年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7
シモジンビル 5F
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389
E-mail eigyo@salat.co.jp
URL : <http://www.salat.co.jp>

SALAT
Salat Corporation

サラトは昨年（平成二十六年）、全国百八十校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。



盛り土を運ぶためのベルトコンベア（陸前高田市）